

第1回松戸市文化会館（森のホール21）及び松戸市民劇場指定管理者候補者審査委員会 議事録

1 日時

令和7年8月7日（木） 9時30分から11時30分まで

2 場所

京葉ガスF松戸ビル（松戸市教育委員会） 5階会議室

3 出席者

<審査委員>

委員長 米森 健二 氏（有識者）
副委員長 村上 陽子 生涯学習部長（市職員）
委員 武田 知也 氏（学識経験者）
委員 大野 雄太 氏（学識経験者）
委員 三根 秀洋 生涯学習部教育総務課長（市職員）
委員 関根 嗣人 生涯学習部社会教育課長（市職員）

<事務局>

生涯学習部 社会教育課 吉田主査、坂巻主任主事、増田主任主事
生涯学習部 社会教育課 施設担当室 高橋補佐、濱田主幹

4 議事

- (1) 委員長及び副委員長の選任について
- (2) 松戸市文化会館（森のホール21）及び松戸市民劇場指定管理者候補者審査委員会諮問について
- (3) 募集要領等について
- (4) 指定管理者候補者応募団体一覧について
- (5) 申請書（副本）について
- (6) 審査評価表（案）と審査基準及び最低基準点について
- (7) 第2回審査委員会の流れについて

5 配布資料

- ・次 第
- ・委員名簿
- ・利害関係確認書
- ・審査委員会スケジュール

- ・ 諸問書（写）……………議事（2）
- ・ 松戸市指定管理者募集要領等……………議事（3）
- ・ 指定管理者候補者応募団体一覧……………議事（4）
- ・ 指定管理者候補者指定申請書類（副本）……………議事（5）
- ・ 指定管理者候補者審査評価表（案）……………議事（6）
- ・ 第2回審査委員会の流れについて……………議事（7）

6 議事概要

【外部委員】 A委員、B委員、C委員

【内部委員】 D委員、E委員、F委員

委嘱状交付式

- ①委嘱状の交付
- ②委員紹介
- ③事務局紹介

（1）委員長及び副委員長の選任について

委員の互選により委員長を米森委員に、副委員長に村上委員を選任。

（2）松戸市文化会館（森のホール21）及び松戸市民劇場指定管理者候補者審査委員会諮問について

教育長から本審査委員会に対して、指定管理者候補者に対する審査基準に基づく評価に関して、意見を求める旨の諮問内容となっている説明。

（3）募集要領等について

配布した募集要領や仕様書等について事務局から説明。

【質疑応答】

【D委員】

人員配置のところで、人数が不足していると市が判断した場合とあるが、何の業務に何人の配置といった基準はお持ちでしょうか。

【事務局】

基準等は今回設けていないです。施設の運営に関して、利用者の不便にならないように配置することとだけ定めました。指定管理者が配置した人数に対して

利用者からの苦情があったり、サービスが行き届いてないと市が判断した場合、市の方で改善勧告を行う旨の記載があります。

〔B委員〕

自主事業に関する留意事項について、市の方から指定管理者へ必須として定めているものがありますか。

〔事務局〕

今回の募集では定めてないです。

〔A委員〕

事業費と自主事業費の違いは何ですか。

〔事務局〕

事業費に関しては、公演等が含まれます。自主事業とは、利用者の利便に繋がるもの導入すること等を想定しております。

〔A委員〕

我々にも応募業者の質疑及び回答の資料は提供いただけますか。

〔事務局〕

後ほど共有いたします。

〔A委員〕

現指定管理者が企画しており、年度が変わって異なる事業者になった場合、引き継ぐ事業はございますか。

〔事務局〕

基本的に現指定管理者との協議になります。仕様書には利用者のサービスに供するものについては、引き継ぎ指定管理が変わった場合も行っていただくと記載しております。

〔C委員〕

指定管理者が変わった場合は、現在の従業員も一斉に契約が変わって解雇になるといったことはありますか。

【事務局】

現指定管理者との協議になります。他自治体の事例ですと、現行の施設のノウハウを引き継ぐため雇用継続する場合もあると聞き及んでおります。

（4）指定管理者候補者応募団体一覧について

応募のスケジュールについて説明。募集の結果、「株式会社 ケイミックスパブリックビジネス」、「株式会社 コンベンションリングージ」、アクティオ株式会社と株式会社シグマコミュニケーションズが「共同事業体 MORIMIRAI」として、「公益財団法人 松戸市文化振興財団」の4団体の応募があったことを説明。

（5）申請書（副本）について

委員の手元に配布したのは審査の公平性を期すため、企業名や企業のロゴマーク、役員情報等、応募者が特定できる記載内容について、黒塗りしている副本であることの説明。

（6）審査評価表（案）と審査基準及び最低基準点について

事務局作成の評価表（案）の内容についてと、最低基準点の設定について審議いただくことの説明及び配点及び得点の算出方法について説明。

【質疑応答】

【B委員】

外部資金の導入のような、例えば協賛金や助成金などで指定管理料の何割は確保するといった努力義務等はありますか。

【事務局】

定めておりません。

【B委員】

「（市内業者の活用、地元雇用の促進等について）市内業者の活用や地元雇用の促進など、地域振興に寄与する提案がなされているか」について、指定管理を行う上で地元業者を活用するとか、地元の人材を雇用する予定であるといった意味なのでしょうか。

【事務局】

お見込みの通りです。

[B委員]

文化芸術に限らない地域振興という認識でよろしいですか。

[事務局]

お見込みの通りです。

[C委員]

選定基準（2）の「住民」と評価項目では「市民」となっているものは松戸市の住民、市民ということでよろしいでしょうか。その場合、差別的な取り扱いの禁止について、ホールの予約等で市内の方が先行予約といった形があつたら、それに該当するのでしょうか。

[事務局]

住民、市民についてはお見込みの通りです。差別的な取り扱いについては現状文化会館及び市民劇場は先行予約というものが設けてはおりませんが、そのような提案があった場合は、差別的な取り扱いとは異なるのではと考えていいと思います。

[A委員]

こちらの評価表は、応募業者に提示はしていますか。

[事務局]

提示しないものとなっております。

[A委員]

こちらの評価表に対応するそれぞれの提案がない場合があるということですね。

[事務局]

考えられます。

[A委員]

先ほど自主事業について市の方から特段求めているものはないという話でしたが、この部分については様々な提案が出てくると思います。特に収入に関しては、事業者の収入になるため、例えば収益力の高い鑑賞事業だったりとかを積極

的に行っていくということ、それを行うことで市の支出する指定管理料を低減させるといった提案も出てくると思います。一方では育成事業や普及事業、また、他の機関と連携して行うアウトリーチであったりだと、そういう収益を生みにくい事業というのも当然やっていっていただかなければいけないと思います。

それら、収益を生みにくい事業もしっかりと評価していくという視点で、この「(自主事業計画や施設の設置目的達成に向けた取組について)施設の設置目的に沿った企画で、効果的なものであるか」といったところ等の評価を行っていかなければいけないのではないかと思いますが、委員のみなさまいかがでしょうか。

〔B委員〕

まさにおっしゃるとおりかなと思います。設置目的や条例から我々は見ないといけないと思います。それに関する自主事業の収入と管理代行料の割合や指針は、市から示さずに指定管理者の提案にゆだねるといった理解でよろしいですか。

〔事務局〕

お見込みのとおりです。

〔A委員〕

収益性ということだけで評価するのは評価しづらい面もある。B委員の話にもあったとおり、施設の設置目的といったものが謳われているが、特に市民劇場の場合は場の提供としか書いていないため、貸館事業と受け取ってしまい、それだけを行っていればいいのかという読み取り方も出来てしまう。

そのあたりについて提案があった場合どう評価していくのか、そこも一つのポイントかなと思っております。そのあたりも皆さんのご意見を伺いながら、評価をしていきたいと考えております。そこを委員の皆様と共有したかった部分です。

〔C委員〕

「応募者独自の提案があるか」ということに関して、もう少し具体的にお示し頂きたい。

〔A委員〕

特に「住民サービスの向上を目指すものであること」といったところですから、

住民サービスの向上を目指すまでの独自提案っていうところが、一体どういうものを評価すればいいのかっていうところですかね。

いろいろなベクトルでみなさん評価していくと、なかなかまとまっていかないところがありますから、なるべく市としてここをちゃんと評価していきたいとか、そういう方針があるのであればお示しいただきたい。

[事務局]

広く見ていただくといった意識でお示ししておりました。

[C委員]

これだけだと個性的なもので、他と違えば点数が高い、という風になってしまふ恐れがある。補足するような文言を追加するか、(3)の「住民サービスの向上を目指す」という選定基準に紐結びづけた上でというのを、我々の中で確認して話を進めた方が良いと思います。

[A委員]

実際のこの最終的な評価表っていうのは、委員会の中で各委員が採点をしていくということで、最終的に集計したものは評価の視点を含めて提示されるものですか。

[事務局]

提示されます。本日こういった形で評価項目をご審議いただいているが、ご審議いただいた内容を反映させたものを第2回の審査委員会で実際に点数をつけていただき、みなさまの点数をまとめたものを項目とあわせホームページに公開という形になります。

[A委員]

応募者独自の提案というのは、何を評価したんだと言われた時に、委員会としてしっかりお答えをしなくてはいけないという場面も出てくるかと思います。改めてそこは共有化を図っていく形にしましょう。

[C委員]

(選定基準) 住民サービスの向上を目指すものであることを紐づけて読み取って良いものですか。

[事務局]

紐づいて考えていいものです。他の項目についても、同様に考えてください。

[C委員]

それでしたら評価を出せると思います。今回の個所では独自のものではあるけど内容としてはちょっと…というものでしたら、評価しないの方で採点してよろしいんですよね。

[事務局]

お見込みのとおりです。

[D委員]

最終的に表に出る部分は、計算した後の得点で出るのか、それとも項目ごとになのでしょうか。

[事務局]

大きな項目と共に、項目それぞれの点数も公表されます。

[B委員]

収益事業化しやすい事業と、それ以外の人材育成や教育普及に関する評価については、特に新しい項目や区別をつけるのではなく、例えば評価項目の4・5・15で判断評価をしていくという理解でよろしいでしょうか。

[事務局]

本審査委員会での審議の上で、新しい項目を追加させていただくのは可能です。

[B委員]

先ほどもありましたが、市の方でこういったことを大事にしてほしいといったような根拠となるものは、今のところないということでおよろしいですか。

[事務局]

現状は細かく明確にしているものはありません。

[A委員]

(仕様書の)文化会館の設置の目的の中に「松戸ゆかりの著名な文化人や芸術家などと連携し」とあるので、そこしか読み取るところはないのかなと思います。

「都市ブランドを高め、文化芸術活動を支援・促進することで、地域コミュニティの活性化と文化芸術の水準の向上を目指すものとします」の部分が、評価項目の4、地域における文化芸術活動の支援や促進といった部分に絡んでくるということになると、B委員が言うようにそれ以外の普及とか啓蒙的な事業の評価をどこでするか。

ただし、項目を増やしすぎても母数が変わらないため配点それぞれの項目が弱くなってしまうと思われる。

[C委員]

たしかに、すべて重要なことではあると思うのですが、結局、もし素晴らしい提案がなされていたとしても、それは選定基準（1）や（2）の40点の中の細目にすぎないということですね。

とにかく住民の方に対して根拠のある良い提案がなされているかということで、我々委員の方が採点すればよいかなと思います。

[委員長]

それでは事務局の方からご提示いただいている、審査評価表の内容及び最低基準点を6割である72点とすることで委員会としては承諾したいと思いますが、いかがでしょうか。

[委員一同]

異議なし

（7）第2回審査委員会の流れについて

第2回審査委員会の内容及び流れについて事務局から説明。

プレゼンテーションの時間管理等を確認。

今後共有したい事項等があれば、事務局を通して他の委員に共有することを確認し閉会

第2回松戸市文化会館（森のホール21）及び松戸市民劇場指定管理者候補者審査委員会 議事録

1 日時

令和7年8月27日（水）9時から13時まで

2 場所

松戸市文化ホール

3 出席者

<審査委員>

委員長 米森 健二 氏 (有識者)
副委員長 村上 陽子 生涯学習部長（市職員）
委員 武田 知也 氏 (学識経験者)
委員 大野 雄太 氏 (学識経験者)
委員 三根 秀洋 生涯学習部教育総務課長（市職員）
委員 関根 嗣人 生涯学習部社会教育課長（市職員）

<事務局>

生涯学習部 社会教育課 三田村補佐、吉田主査、坂巻主任主事、増田主任主事
生涯学習部 社会教育課 施設担当室 濱田主幹

4 議事

（1）本日のスケジュールについて他

- ・本日の流れ
- ・審査評価表について
- ・その他連絡事項

（2）中小企業診断の結果について（リモート）

（3）指定管理者候補者によるプレゼンテーション（4社分）

- ・入室準備
 - ・プレゼンテーション
 - ・質疑応答
 - ・片付け、退室
-
- ・委員による意見交換
 - ・評価表記入（仮）

(4) 評価表記入（最終評価）

5 配布資料

- ・次第
- ・タイムスケジュール
- ・財務分析資料
- ・評価表（4社分）
- ・評価表について（第1回審査委員会 参考資料8）

6 議事概要

【外部委員】 A委員、B委員、C委員

【内部委員】 D委員、E委員、F委員

(1) 「本日のスケジュールについて」

- ・第2回審査委員会のタイムスケジュールについて説明
- ・評価表についての確認
- ・連絡事項について

(2) 「中小企業診断の結果について」

- ・中小企業診断士から応募団体の財務分析結果について説明

(3) 指定管理者候補者によるプレゼンテーション（4社分）

（A社によるプレゼンテーション）

（プレゼンテーションを受けて質疑応答）

〔B委員〕

私から3点ほどご質問させていただきます。

1点目、文化事業の鑑賞事業に関しまして、主催事業と共催事業の区分けと、その中で貸館事業と鑑賞事業を挙げられていますが性質の違いの意識についてお伺いいたします。

2点目、収支予算で、事業収入と事業支出が、少し赤字で作られていますが何か理由等がございますか。

3点目、体制について、文化事業企画室のサポートやバックアップというのほどの程度具体的な事業に関わるのか、文化会館の事業としては営業課長、営業

担当の2名のみでやられるという理解でよろしいのかお伺いできればと思います。

[A社]

こちらで提案させていただいたのは基本的には主催事業となってます。それ以外に共催というリスクを分担する事業は別途ということになっております。

貸館と主催の違いですが、貸館というのはできるだけオープンで公平な条件を、主催というのは松戸市民のみなさまに届けなければならない事業を優先的に行うというのが指定管理の使命だと思っております。

収支予算における事業については、一つ一つ個別に収支を出しております。儲けのためにという趣旨では行っておりませんので、それでマイナスになることもあります。ただ、全体の中で収支は釣り合う仕様になっております。文化事業企画室のサポート体制ですが、多岐にわたっており、政策業務、舞台や裏回しといった裏方、全てに文化事業企画室が入り込むことによって、ハイクオリティにあげていくというのが、全体のカリキュラムです。企画室がサポートすることで一定のクオリティ、品質を担保する協力の仕方を、情報提供、もしくは情報をこちらが直接担うといった形で進めてまいります。

今回17事業ご提案させていただいておりますが、全国の施設でもこのような事業規模で、2名体制で十分に実施できておりますので、十分実現可能と考えております。

ただし、直前の準備、当日は館長以下、全て一員として運営しますので、現在営業課は2名体制で行いますが、少なくとも当日、事前にては全員体制、及び本社側の支援、バックアップも十二分に行われております。

[C委員]

松戸市オリジナルの地域のニーズに応じたオーダーメイドに関して、なにか現在企画しているものをいくつかお聞かせ下さい。

[A社]

具体的には、市民の文化芸術活動が盛んであること、市内に音楽学部を持つ大学もあるというところで、事業の中で積極的に活用していきたいと考えております。具体的には、エントランスでのロビーコンサートで若手のアーティストや大学生を活用する形で、市の文化振興に寄与していきたいと考えております。加えてアーティストアーカイブスといった、地域にゆかりのある方、地域で活動されている方々をグループで作っていく支援を進めていきたいと考えております。

[A委員]

事業企画を行う本社の事業企画室の運営費は、指定管理費の中の人物費に含まれているのか、それとも事業費のなかでその都度見込んでいるのか、お聞かせください。

[A社]

管理費というものが文化事業企画室のバックアップに掛かる費用、あとはその他管理費、現場の直接経費以外のところは全て管理費という項目で設定をさせていただいております。

[A委員]

管理費の中から一部支出があって、それを本社の収益として考えられているということですか。

[A社]

いえ、決算書で言えば販売管理の一般管理および販売費です。そのあとで、利益がでてきます。

[A委員]

指定管理者というのは市民や自治体の方々とWINWINの関係を築いていくのが前提となってくると思いますが、御社が松戸市で運営を担うことの財政的なメリット以外のメリットをどのようにお考えですか。

[A社]

財政的以外のメリットは、全国68の自治体で広く運営をしている中で様々な引き出しを持っております。そういうもののなかから、松戸市民に合うものをご提案させていただいております。例えば市民の方からのご要望を受けた時に、こんな事ができますと、様々な引き出しをご提案できるというところが、弊社の強みであると考えております。

地域の活性化のために、貢献したいという気持ちで作っておりますので、利益もありますが、それは経費を縮減、市民サービスの向上によって利用量を増やすことによって、利益は後から生み出されるものと考えて活動しております。

(質疑応答終了。A社退出後、委員意見交換)

[A委員]

全体を受けて、団体の事業企画を含めて自ら提案できるということはよく書

かれていると思いましたが、松戸市との連携や市民、地域との連携については少し薄めかなと、印象を受けました。

〔D委員〕

市民劇場が一切触れられていなかったのが少し気になりました。

〔A委員〕

もともと舞台スタッフを配置しないということで、適宜配置となっているのが、利用率向上を、と言っているのに大丈夫ですか、と言おうとも思ったのですが、そこは今日のプレゼンテーションで解決できました。

〔B委員〕

すべて共通のバイイングをベースとしながら、現場にいるのが一名ないしは二名というところで、そのオーダーメイドというところが、正直どこまでできるのか。

本社機能が14名というところから、68自治体、98施設、これは正直オリジナルな事業をやるのが困難な体制と思います。

文化会館は貸館事業も代理店による事業が多数されてますので、似たようなことをされる必要がないのかなと思います。その違いを質問で聞きたかったんですが、うまく受け取っていただけませんでした。

〔C委員〕

教育とか育てるというところを言及はされていたんですが、それについて具体的な踏み込みがちょっとなかった。

ロビーコンサートとかあまりお金がホールに発生しないような形で、とりあえず学生とか若手とかを使えばなんとかなるというのが少し透けて見えてしまいました。

他の地域だとそれでよかったのかもしれないですが、他の運営されているホールを見ると、小規模のホールが多いということで、これだけ規模の大きいホールを運営するのは、企業にとっては、ある意味初めての取り組みに思えますが、それに相当する規模の提案がなされていない印象を受けました。

〔F委員〕

全般の中で質問する時間はなかったんですが、来館する市民のサービスで、今営業を休止しているレストランの再開についての言及がなかったので、どうなのかな、と思いました。提案書を見てもなかったものですから、これからに期待というところではここに関してあまり期待できないのかな、といった印象を受

けました。

(意見交換終了)

(B社によるプレゼンテーション)

(プレゼンテーションを受けて質疑応答)

[B委員]

非常に多彩な自主事業の方をご提案いただいており、収益をあげられやすい事業と、なかなか難しい事業があるのかなと思っていますが、どのようなイメージで配分とか考えていらっしゃるか。

あと、パラダイスエアさんとの連携について、レストランスペースの活用も含めてご提案いただいているますが、こちらすでに独自の連携関係があるのか、具体性があるのかということをお伺いできればと思います。

あとは相談窓口です。これも地味ですが非常に重要で、昨今の需要を捉えたご提案と思っております。事業を担当されるのが3名とご提案いただいているが、部活動も立ち上げられるという、かなり手間のかかる事業をトライされようとしているのと思いますが、この3名の方がどういった専門性を兼ねているスタッフを想定されているのかをお伺いできればと思います。

[B社]

収支バランスの考え方ですが、ある程度採算事業で非採算部分を補填するような形を計画段階で綿密に算出しまして、非採算事業につきましては、市民の方々の参加、いろいろな意味での還元という形で考えました。(その結果) 収支0と今の段階ではご提案させていただいております。

それと積極的に助成金申請を推進しまして、例えばチケット料金をなるべく安価に設定する、そういう意味での還元策も考えております。

2点目のパラダイスエアさんですが、まだ具体的に接触をしているわけではないのでもし選定いただけたら、連携して一緒に取り組みを推進したいと考えております。

3つ目の事業についてですけども、弊社は全国で50施設運営しておりますので、事業については各施設で行っております。人員配置のなかで事業については、経験者を含めて3名の体制にしておりますが、あとは育てる意味でもこういった3名だけではなく、館長副館長といった他のスタッフも含めた体制を取るのと、いわゆる総務、経理、営業部門につきましても本社で機能をもっており対応いたしますので、現場スタッフが事業に集中できる環境を作っております。

[C委員]

2点ご質問させていただきます。

松戸市への郷土愛を育成する事業とあるのですが、具体的にもう少し詳しくご説明いただければと思います。

もう1つ、管理経費の縮減のことですが、例えば他のホールでの具体的な成功例があれば、松戸市のホールではどのような形で取り入れていくのか、もう少し詳しくご説明いただければと思います。

[B社]

インターンシップや職場体験ということで中学高校、大学とそれぞれ行っている事例があり、施設で働くということがまず一つ。もう一つは集客機能として大勢の方が集まるので、コンサートとかでまっすぐ帰るのではなくて、松戸のいいところを少し紹介して、立ち寄っていただくことで、松戸市を知っていただくことの情報発信もできるのではないか、ということが一点でございます。

管理経費の縮減は業務の効率化というところで、現在チケットカウンター、インフォメーション、事務所、それぞれ人がいるものを1か所に集中するという提案をしております。劇場ではないですが、以前他の自治体の生涯学習センターで、窓口が複数に分かれていたところを、エントランスの一か所に機能を集約化したという事例がございます。今回長く今のルールで運営されてきたので、利用者の方が戸惑うようなことがないように、最初は案内する人を置いて、最終的には一か所に集約すること、あとはITを使ったところ、しかしITを使えない方もいらっしゃると思いますので、その辺のバランスを取りながら、業務の効率化と、経費削減とサービスの低下がないような形での運営をしていきたいと考えております。

[C委員]

もう一点よろしいですか。

ワンストップで様々なオーダーが出来る、といった提案の中で飲食とありましたが、文化会館はレセプションホール、食事が提供できるキッチンスペースがあり、そのスペースの利用についてアイディアや方針はありますか。

[B社]

例えば会議室等を利用して、施設側に頼んでいただければ、施設内の飲食スペースと連携しご提供するようなことが一つできるかなと思っております。

自主事業に関しましては、レストランスペースでランチタイムコンサートをするなど、連携が出来ます。特に今回講座事業を年間100コマ行う提案もして

おりますので、連携したイベントも講座事業として展開したいと考えております。

〔A委員〕

地域の特性を活かした事業展開ということで、21世紀の森との連携という形でご提案をされておりますが、他施設におけるこういった公園施設との連携事業の実績はいかがでしょうか。

〔B社〕

他自治体のホールで、第1期の指定管理期間ではホールだけだったのが、2期目からは広場も付帯運営となっております。目的としては連携をさせるということがあり、先日あるアーティストのコンサートが1週間にわたって行われた時に、公園で屋外イベントを一緒に行っていただくという提案をしました。劇場と公園を一体的に使うといった提案をして、有効活用できる、多くの方が集まった時に、人を流せるといったことができますので、そういった経験を活かしてここでもにぎわいを作れればと考えております。

〔A委員〕

収支計画の中で1点、人件費については年々ベースアップが見込まれております。ただし、危機管理の面で重要な役割を果たす舞台スタッフ、舞台運営費、こちらが特にベースアップが見込まれておらず、年々一定の金額になっているのですが、彼らのモチベーションという意味でもどう考えているのかというのもお聞かせいただければと思います。

〔B社〕

舞台委託費に関しましては、業務委託というところで、見積をそのまま計上しておりますが、舞台だけに関わらず、維持管理部門に関しても清掃員、警備員は委託費の中でも人件費になりますので、年度ごとにも委託業者と協定を結びます。その時に最低賃金が5パーセントレベルには上がっておりますので、上げていくという交渉がございます。それに関しては応じていくというところです。その上がった分のコストは、間接経費としていわゆる本社経費、そこが年々業務に慣れてきますので、そこを減らすことで、そちらのアップとバランスを取っていきたいと考えております。

(質疑応答終了。B社退出後、委員意見交換)

〔A委員〕

魅力的な提案書ではありますが、事業展開や、ウェブの導入など、かなりのマンパワーが必要となってくるのかなと。ただ本社機能が担っていくということもあるんですが、現地に配置された人員っていうのが、地域密着型での期待感というのもありながら、これだけのことを本当にできるのかと、ちょっと不安な部分があるのかなと。

[B委員]

生涯学習の所管である施設と、違う部分の両輪をしっかりとらえていると思います。地域創造というキーワードもご自身で出していて、かなりバランス良い提案かなと思います。ただ、A委員がおっしゃるとおり、風呂敷がかなり大きいのかなと。

助成金実績は書いてある部分では評価できますが、取れている金額としてはそんなに高くないので、企画力がどの程度なのか、という部分があると思います。

[A委員]

今企画されている運営、事業内容については助成金が取れるかというと、ちょっと難しいかなと。

[B委員]

部活動とかは、期間をどれくらいで設定されるのかなと。それによってはかなりの労力になってしまふ。

[C委員]

運営しているホールが駅からそれなりに距離があり、大きいホールといった（文化会館と）似たようなホールが多いんですよね。そういう運営実績があるのは安心できるなと思いますが、やはり松戸市でこれから立ち上げることが多いと思うので、本当にマンパワーとしては大変ですよね。そこを本社の方でコントロールできるのか。

今の働いている方も再契約とも書いてあったので、その方が本当に混ざって仕事ができるのかというところは却って不安だと思います。

[A委員]

文化が違いますから、新しい文化に入り込めるのかという。

[C委員]

本当にもう刷新するくらいの勢いで意欲的に考えてくださってるので、経費削減できるのか、に対して、こうだから出来る、のようになんと考えてくださ

つてゐる。こうしたら稼働率があがるといったような、まず稼働率をあげるといった、これがうまくいけば収支も増やせて、さらにマンパワーも増えるや、ボランティアの方も参画してくれるなど、そこまで考えているんじゃないかなと、期待したいと思っております。

[E委員]

提案書をじっくり見させていただき、やり取りを聞いてもしっかりしていて、いろいろ考えていただいているなと思いました。

やはりアクセスが悪いので、何もないときは誰もいないといった状況がずっと続いているので、人が集まるような想定がされる提案だったのかなと思います。

[D委員]

全体的な構成もそうですが、提案書の雇用のところで、スタッフの経験が1年未満という記載もあり、しきりに本社でとおっしゃっていたんですけど、現場が即時対応っていう場面もあるとは思うので、なにかあったらすぐ本社から毎回飛んでくるんですか、と思います。

[B委員]

本来であれば3年以上は欲しいところ。

[A委員]

今は人材不足で人材確保が難しいのでということなんでしょうね。リスクヘッジとしての現れなのかなと思います。

[B委員]

事業についてはいいバランスの計画だと思います。

[A委員]

資金をしっかり用意したらという話にもなってくると思います。

[A委員]

運用や利用者対応含めて、これほど実績があるので信頼できるのかなという取り組みが多々提案されているので、しっかり実現できればと思います。

ある程度の初期投資は必要となってくるとは思いますが。

(意見交換終了)

(C社によるプレゼンテーション)

(プレゼンテーションを受けて質疑応答)

[B委員]

主催事業で新規事業に力を入れる、の活性化事業で、具体的な事業内容が少し見えづらかったんですが、具体的に一番力を入れて行おうとしているのかご説明いただければと思います。

もう一つが主催事業と共催事業で、主催事業は協力企業との連携、共催事業はプロモーターとの連携で、ということですが、主催事業を選定していくにあたってポイントやコンセプトがあるか、共催事業との違いはなにか、ということをお聞かせ下さい。

[C社]

新規事業についてですが、今回は市民劇場、あるいは小ホール、レセプションホール、そういうところの施設の活性化をさらに注力していきたいと考えております。

関係者の中に松戸市民も多数おり、いろいろなお話を聞いて参りました。市民劇場ではなかなか事業系が展開されていないとか、中心市街地活性化の中で果たすべき役割が大きいと考えております。文化会館に関してもレセプションホール含めいろいろな施設、活性化事業も含めて注力していきたいと考えております。

2点目、主催事業のコンセプトに関してですが、クラッシックの大型コンサートを実現していくという中で、それ以外の事業というところも協力したいなど。定期的に事業の見直し等を含めて図っていく必要があるのかなと。やはり他にも聞きたいアーティスト、あるいは観劇したい舞台だったりあると思います。そういうところは十分に展開していきたいと考えております。

[C委員]

新規事業のところで小学生のための管楽器レッスンということで書かれてあるのですが、会場が近隣の学校になっておりますが、こちらに関してもう少し具体的にお聞かせください。

[C社]

最初に関してはホールの方を活用していくべきものと思ってます。最初は学校での鑑賞事業を中心に進めていくと思います。その中で管楽器に関し

ましては、松戸で市も注力されている部分かと思いますので、学校と連携して実現していきたいと思っております。

[C委員]

具体的にどこの小学校といったリサーチはされていますか。

[C社]

まだ現時点での取り組みはしておりません。

[D委員]

提案書の運営組織のところで、文化会館の清掃員が7名というのは少ないような印象があるのですが、その辺はどのようなお考えですか。

[C社]

我々としては、コスト数に対して適正な人数というのが、変わってくると思っており、人数で示すのが少し難しいと思います。清掃も含めてコストとバランスを見ているので、人数に関しては大きな深い意味はなくて、コストの方で考えたい思っております。

[A委員]

自由提案の中で、音場（OToba） in 21世紀の森と広場という形で、外の森に対して取り組むサウンドスケープのような取り組みをご提案いただいてますが、博物館であったり公園であったり、劇場ホール施設の連携を掲げての事業展開の実績とかはございますか。

[C社]

東北の方で、博物館機能とホール機能が複合施設となっているところがございまして、文化会館の方に興味があつて来られた方が（博物館に）寄っていただくことで、さらに知見を増やしたり、ご自身の趣味を広げるといった取り組みをしています。来ていただいた時にできるだけ回遊していただくことで、市民の方、地域の方が、さらにスキルアップしていただく取り組みをしております。

[A委員]

そういう実績を活かしながら他施設との連携、または広場等との連携の企画を積極的に考えるということですね。

施設設備の長寿命化を図り維持していく、管理をしていくところで、安心安全なというのは、一番大切だというお考えがあると思いますが、特に市民劇場に

関してはかなり老朽化した施設にも関わらず、事業展開の方でしっかりと行っていくという考え方でご提案されていますが、市民劇場の老朽化に対するリスクはどの程度の大きさで考えているのかを少しお聞かせいただければと思います。

[C社]

我々も経年劣化している施設を多数管理しているので、しっかりと専門スタッフで対処していきたいと思います。

[A委員]

金額的な部分で大小の差はあるんですが、収支計画の中で舞台保守管理費を220万円という、比較的安価な金額で推移してるので、その辺の金額の捉え方とリスクっていうものの乖離がなければいいな、と思います。

[C社]

舞台管理の保守の積算につきましては、基本的な保守点検というので積算しておりますが、やはり設備が古いというのは認識しております。やはりどこかの機械が壊れてしまえば、機能自体が止まってしまいますので、そういう調査を先回りでさせていただきながら、適切な方針をご提案させていただく必要もございますし、指定管理費用の中でさせていただくこともあると思います。しかしまずは先回りで管理をしながら、中長期の計画の方を立てながら、提案していくということを行っていきたいと思います。

[C社]

すみません、先ほどの清掃の件追加で回答させていただきます。シフトの配置としてはコアな時間は常時4名の清掃員が館内の清掃を行うという状況となっており、こちらについては何度か現地調査をさせていただいた上でそちらの人数を配置するという計画をし、その雇用人数が7名という形です。ただし働き方によって人数の変化はあります。

[B委員]

収支予算書の収入で、販売事業で受取手数料と物品販売手数料を見込んでおりますが、どういったものを想定されているのでしょうか。

[C社]

こちらは、共催事業の、チケット販売の手数料を収入としているのが現状もあるという形のところと、物品販売に関しても物品販売手数料というものを含めて収益としています。今回このホールに関しても大きな収益源の一つになって

いるとお伺いしております。そういう形でホール自体は共催事業を活用しながら、収益化させていくというのが現在の取り組みでもあったのかなというところもありましたので、そこに関しては継続できるなら継続して、我々の方でも当然物品を販売というのを考えておりますので、事業収入を増やして、指定管理料の減額につなげていきたいと考えております。

[A委員]

松戸市に非常になじみのある方々が運営に関わっているというお話を伺いました、そういう方から率直にこの2つの施設の評価はどのように見られてますか。

[C社]

率直に言えば、どうしても古くなったという、古いというワードを最初に言わざるを得ない部分なのかなと。森のホールは大規模なプロモーターが関わって活躍しているホールという印象が強く、いわゆる本質的なホールの良さがあまり伝わってこない。やはり老朽化とか古いとか時間が経ったなという印象は正直あります。

職員の方々が、経年劣化に伴い、古い施設を皆さんにお貸出ししている、いわゆる負い目みたいな部分を感じながら運営されている印象を受けました。その中で、我々としては施設に対して経年劣化を含めて、良くしていきながら自分たちで働くことを誇りに思える職場にしていくのが、市民劇場を含めて非常に重要なことと思っております。

(質疑応答終了。C社退出後、委員意見交換)

[A委員]

内容的にはかなり様々な提案が入っていたと思います。ただB社に比べ、少し地域連携という面で地域の読み込み、地域的なつながりが薄いかなと思いました。

[B委員]

すごい手堅い。B社とは真逆の印象を受けました。

予算も事業もリアリティがある。計画としてはしっかりされている。

[D委員]

資料のところに自治体が70%とあって、行政の心をくすぐる手堅い感じで

仕上げてきたな、と思います。

[A委員]

あとはＳＰＣがどれだけ入ってくるか。

[B委員]

自主事業に関しては、館長のプレゼンテーションも個性的でした。

[A委員]

そうなってくると、相性の問題もあるかもしれない。

[C委員]

老朽化という差し迫った問題にがっぷり四つで向かって来てることは、管理会社としてとても評価できるところかと思います。

(文化会館は) 駅から遠いんですよね。例えばレストランと言われても、本当にそこに利用者がいるのかという。やりますと言っても、多分できないのではないか。

どうやったら利用者が増えるのかっていう、踏み込んだ提案に関してですが、学校という話もあったんですが、具体的にこの学校が、といった地域の学校の特性に関してはまだリサーチしてなくて、今小学校に踏み込もうと思ったら、教育委員会を通して、外部の人間が小学校に入ること自体が相当難しい。

しかも中学校じゃなくてなんで小学校なんだろうと。小学校で吹奏楽をしているところなんてわずかしかないんです。そういうところもないで、おそらく腰が動かないんじゃないのかなと。

生涯学習としての施設で子供たちを巻き込みたいという気持ちはすごく伝わってきましたが、ただ具体的にというと、ちょっと難しいというか、アイディアがないのかなと。

[B委員]

魅力的なアイディアはそれほど出てきていないですね。活性化事業も具体的なことはまだなにもなかったようなので。

[C委員]

森っていうのはすごくいいですが、実際の森に出ていくのではないんだ、と。

[B委員]

アウトリーチとしては書いてあるんですけどね。

【C委員】

施設管理とか今後の維持とか、そういうところまで踏み込んでくれたっていうのは説得力はありますよね。

【A委員】

やはり子供たちと一緒に事業を展開していくとか、小学校と連携してとかは相当なノウハウがないと無理ですよね。

そういうものを主体として行っている NPO の長年の経験等ではじめて可能なところもあるかなと。

ただ、提案で事業計画は維持管理のところに来て、ぐっと具体的に内容が良くなつた。

【B委員】

共同事業体の一者が様々な劇場を管理しているので、すごいリアリティがあるのかなと。

(意見交換終了)

(D社によるプレゼンテーション)

(プレゼンテーションを受けて質疑応答)

【B委員】

3点ほどございます。

収支予算書で直接的に事業に関わる収入と支出がわからなかったです。いわゆる事業規模、事業予算というのはどれくらい想定されているのかをまずお伺いします。

また、広報費も予算書のどこの部分に該当するのかわからなかったのでお伺いします。

最後に人員体制ですが、事業班の職員が6名と書いてありますが、内訳ですと3名しか書いていないように見えるのが、誤植なのかどうか答えてもらつてよろしいでしょうか。

【D社】

事業というものと指定管理というもので、大きく二つに分かれています、指定管理のものだけの収支と、事業だけの収支という形で考えております。最終的には、

数値が全部一緒になってるのですが、全く違う感じのものを2つ合わせているという提案をさせていただいております。

主催事業は主催事業だけの収支。支出と収入がゼロになるように見越して作っております。

[D社]

提案書の38ページの中で、事業班は6名、下に職員3名ということですが、こちら3名の臨時職員が入って6名ということで、(誤って)表記してしまいましたので、ご確認お願いします。

[D社]

(広報費の)用途につきましてはホームページの予算と、あと今回リーフレットのようなものを新たに作りますので、その予算を計上しています。

[B委員]

それがどれに当たるのですか。通信運搬ですか。規模感がちょっとわからなかつたので。

[D社]

収支予算計画書の中で表記をさせていただいております。

[B委員]

収支予算書の、令和8年から11年度、のどちらにどういう品目をあてようとしているのですか。

[D社]

それぞれ数字が分かれておりまして、個別だとはつきりわからないです。

[D社]

先ほどの収支予算書の入場料収益が令和8年度から令和11年度まで大体同じ数値が入れてあるのですが、これは私たちが考えている主催事業の経費を、それで相殺できるだろうと思われる予算を見越している数値になっております。

[B委員]

その入場料収益ってところが自主事業に充てる収支の予算ということ、収入ということですね。

【C委員】

企画書の方で、市民の参加を促進するために、ずっと30年以上努力してこられたと思うのですが、コロナ禍から文化活動に係る人々が減少しているとあり、そのために、具体的なその方策に取り組みますと書いてありますが、どのようなことをしていくのかということを、もし具体例があればお知らせください。

【D社】

具体的にというところでまず、色々な分野に関して幅を広げていかないといけないと思います。どちらかといえば、今まで音楽を中心となっていた傾向があるのですが、音楽に関してはコロナ禍で人が減ってはいるのですが、活動する団体というのはあまり変わってないです。

ところが、他の芸術関係については、団体の数も減ってきており、人数も減っている傾向がございます。

それに対して、音楽部門に関しては、人を増やすための具体的な方策ということで、幅広くいろいろなことを知っていただくというよりも、参加していただい、その音楽の良さを感じていただければ、そういうことを広げていくような方策になってきます

また、他の文化芸術関係については、もっと幅広い、芸術文化に関してのアピールをしていくことによって、ワークショップだけじゃなく、鑑賞事業でも幅広いものをもっと実施していくと考えていければと思っております。ですので、一概にすべてに関して、同じ対応していくというのではなく、ジャンルに応じ、現状を見据えた中での対応を考えています。

【A委員】

私の方から2点ほど。この提案書の中で、それぞれの事業の企画政策に関しては、知見を持って新たな人材を登用していく計画も含まれているのでしょうか。

【D社】

今のスタッフだけで、これからやろうとすることが全てできるとは思っておりません。やはり新しく事業展開していくためには、人数も含めて新たなノウハウのある人材といったものを考えていかなければいけないと思ってます。しかし今のスタッフも相当色々なノウハウを持ったスタッフが揃ってまいりましたので、できるところではまず進めていきたいと思っております。

【A委員】

もう1点ですけど、財団の設置目的の方では、心豊かな市民生活と活力ある地域社会の実現に寄与する。ということを目的に設立をされていると認識して

いますが、公益財団がホール施設運営を担っていくことについての、意義やメリットについてどのように考えがあるかとお答えいただいていいですか。

[D社]

市民の皆様に色々なことを経験し、そして感じていただくような形ですそれを広げていくことを考えた場合、やはり松戸市の中を考えた時に、市民の方に表現していたことが文化振興につながるものと思っています。そういう利用を促進していることも、文化振興につながるものである、ということと同時に、いろいろな良いもの、良い芸術を鑑賞していただくといったことも、やはり、文化振興にとってすごく大きな役割であると思っております。

そういうことをしっかりと組み合わせながら、どのように展開していくのかを体系的にとらえていくことができるというのが、やはり施設を管理していることと、事業を展開していくことがセットになって初めて有効な方法になると認識します。

ですので、指定管理者として施設を運営しながら、事業展開、松戸市全体の文化振興を見据えた中で、どう活用していくのかというところが、より松戸市の文化振興にとっては有用な方法ではないかと考えています。

[A委員]

施設を運営していくということは、その老朽化した施設に向き合っていかなければならぬし、市民の安全ということも考えていかなければならぬ。ここに注ぐパワーというものを使いながら本来の事業設置目的を果たしていかなければいけないといったところがあるので、なかなか大変な事であると思い、お聞きした次第です。

[D社]

お話をあったような、(提案書に) まちづくりということが、書かれておりまして、文化と教養の街づくりをしていくという中で、公益性が非常に強いと思いますので、その辺も踏まえて、我々がやる意義があると思っています。

[B委員]

2点追加です。イベントの要望に応じた時間外利用の柔軟な対応と書いてありますが、こちらの実績があるのか、一方で、働いている方々に負担になっているかと思うのですが、運用に関して問題はないのかをお伺いしたいというのが一点。

もう一点が公益財団法人として収益事業をやらない、やれないといった言及があったと思いますけど、収益事業と公益目的事業のバランスに考え方について

てお伺いします。

一方で事業費を見込んでる中で、今後も基本的には収益事業はそこまでやらないというお考えでしょうか。

[D社]

まず公益目的事業と収益事業の関係性ですが、基本的に収益事業ができないということではなく、その収益として上がってきた利益を蓄積することが出来ないのです。したがって、当然収益事業で出てきた利益というのはすべて公益目的事業として実施していく、という考え方です。

そういう意味では、いろいろな事業を展開して公益目的事業を行おうとした時には、どんどん収益として上げなければいけない。ということは、指定管理者として一番の収益というのは、指定管理による収益というのも大きくなりますので、その部分を稼いで、稼いだお金を公益目的事業に振り分けて、市民の文化活動に資する事業を行っていくところで考えております。そして、時間外の利用ということですが、やはり森のホールを主体とした施設は音楽ホールという色合いが非常に強い施設であります。本来は、音楽ホール一辺倒ではできない施設、当然集会所として作られているものですね。

しかし運用していく中では、イベントさんからしっかりと選んでいただければ、良い公演が市民の方にも提供できると思っております。

そのためには、他ではやれていないことをうちがやることによって、いいイベントが多数できていると自負しております。

そういう意味では、やはりイベントさんが使いやすいような形。当然市民の方々もそうですが、そういうことを考えなければいけない。

そこでもう一方としては、やはり働く方々の環境、先ほどにも申し上げましたが、やはり気持ちよくお客様に使っていただくためには、我々も含めて、職員全員が気持ちよく働ける環境じゃなければ、そういうサービスができないと思っておりますので、そういうところは、協力事業者と話し合いをしながら、どういう形であれば対応できるのかといったことを、議論をしながらそれぞれ話し合いながら運営していくことが必要で、協力体制が十分築き上げられると思って、そういう話し合いしていくことを心がけていこうと思ってます。

(質疑応答終了。D社退出後、委員意見交換)

[B委員]

具体的にやることと、新たに加えようとするのであれば、具体的にこれぐらいの予算を掛けますや、こういったことに予算をかけていきますとか、予算の紐づけが実際見えなかったと思います。

[A委員]

人材の登用、人件費についても、いきなり動きがあればそういうところも考えてあるのですが、具体的なその紐づけが出来ておらず少し残念です。

[D委員]

委託料にすごく費用が掛かっている。今までの応募団体は、若干委託している部分もありましたが、割と自社で組み立てられているのですが、(D社は)色々な所に委託しているので、費用がかかっているなと思います。

自前でやると、トータルで(費用を)押さえられたりするんだけど、委託を出せば出すほど、コストはかかるてしまう。

[C委員]

修繕とか維持管理を、一般の会社にお願いしていますよっていうことだけですよね。

[A委員]

大規模舞台修繕計画書にかけて、それに対する費用が記載されていたのですが、その費用感を見たら、多分メーカーから出てきた見積書をそのまま鵜呑みにしているような金額ということです。他の民間業者と違ってあまり大きなハード面は行ってないんだなど、出来ていないのだなって取り方もできる数字だったので、その辺を審査するって言うところを見ても、民間事業者と差が出てきていると思います。

[C委員]

経費節減というのが電気代などしかなかったです。
とはいって、教育機関とかの連携に関しては、特に松戸市役所との連携に関しては、間違いないわけですね。

[A委員]

新しいことに対する提案ということもあるのですが、最初のつかみとしては、これまで積み上げたものに対する評価や反省であったり、それを今後こういう展開していくかなければならないんだ、ということがあればよかったですけど、そこが見えてこなかつたですね。そこができるのが、D社しかなかつたのですが。

[F委員]

本当に、前の3社がすごく色々な企画とか、そういう事業を考えてくださって

いて、何か変えてくれるんじゃないかなっていう期待感があった中で、D社は決意表明だけに終わってしまった。

提案内容にしましても、4年前の時と同じことを書いてあり、それを見ると、この4年間何をしていたっていう思いです。

〔B委員〕

相当危機意識は、財団からするとあると思います。だけども、かなり似通っていたということですね。

〔F委員〕

そうです。前回も同じこと書いていて、今の（指定管理期間の）令和4年度から7年度まで何をしてましたかということですね。

〔A委員〕

同じことが出てきたとしてもそれは悪いことじゃなくて、それは継続すべきことであれば、それを継続してもいいと思います。

そこを継続していくという理由などが、しっかり明記されていれば評価も違ってきたと思うのですが。

（4）評価表記入（最終評価）

- ・各委員最終評価を記入

次回第3回の日程を確認し閉会。

第3回松戸市文化会館（森のホール21）及び松戸市民劇場指定管理者候補者審査委員会 議事録

1 日時

令和7年10月8日（水）9時30分から10時20分まで

2 場所

京葉ガスF松戸ビル（松戸市教育委員会） 5階会議室

3 出席者

<審査委員>

委員長 米森 健二 氏 (有識者)
副委員長 村上 陽子 生涯学習部長（市職員）
委員 武田 知也 氏 (学識経験者)
委員 大野 雄太 氏 (学識経験者)
委員 三根 秀洋 生涯学習部教育総務課長（市職員）
委員 関根 嗣人 生涯学習部社会教育課長（市職員）

<事務局>

生涯学習部 社会教育課 三田村補佐、吉田主査、坂巻主任主事、増田主任主事
生涯学習部 社会教育課 施設担当室 高橋補佐、濱田主幹

4 議事

- (1) 審査評価結果の集計について
- (2) 答申（案）について
- (3) その他事項について

5 配布資料

- ・次第
- ・松戸市文化会館（森のホール21）及び松戸市民劇場指定管理者候補者審査評価結果一覧表
- ・答申（案）

6 議事概要

【外部委員】 A委員、B委員、C委員

【内部委員】 D委員、E委員、F委員

(1) 「審査評価結果の集計について」

事務局から審査評価結果の集計について「A社」が72.4点。「B社」が98.4点。「C社」が97.2点。「D社」が74.6点であることを報告。また、いずれの団体も最低基準点である72点を上回っている旨の報告。

(委員による意見交換)

[B委員]

B社とC社が大変競っていますが、今後どうなりますか。

[事務局]

優先交渉順位が高い順に協議を行った上、仮協定の締結、協定の締結まで進めています。

そこで第1優先交渉権者との合意が得られない場合は、第2優先交渉権者と協議を進めています。

[D委員]

協議で話がまとまらない場合というのは、金額の折り合いがつかない、仕様書以外の部分で市の方が依頼する内容と折り合いがつかないといった場合ですか。

また、プレゼンテーション内容の受け止め方等で想定外のことが出てきた場合、実施不可の指示を出すことはありますか。

[事務局]

我々としても足りない部分がないように仕様書を作りますが、協議の段階で調整が必要な部分が出てくると思いますので、そういう部分で折り合いがつかなければ、交渉は破談となります。

提案資料の中で、松戸市教育委員会が許可した事項につきましては、全て実施してもらう規則になっております。そこで許可できないものは実施不可とこちらから指示を出す形になります。

[D委員]

こちらの会社が、他市町村で人員配置などを仕様書通りに運用していないといった、不適切な事案が発覚した場合はどうなるのですか。

[事務局]

協議の上話がまとまらない場合は第2優先交渉権者と協議を進めていくことになります。協議がまとまらなかった場合でも、それまでにかかった費用は補填しないと募集要領に明記しています。

[A委員]

そういった会社としてのリスクも含めた形でお話を進めた方が良いと思うので、公募の会社名をお聞きした方が良いと思うのですがいかがでしょうか。

[事務局]

順位を確定する前に審査委員の皆様にお示しさせて頂くことを、審査委員会の中で決定したという所で進めさせていただいてもよろしいでしょうか。

(異議なし)

[事務局]

それでは第1順位から報告します。B社が株式会社コンベンションリンクージ、C社、共同事業体 MORIMIRAI、D社、公益財団法人松戸市文化振興財団、A社、株式会社ケイミックスパブリックビジネスです。

[A委員]

株式会社コンベンションリンクージは自主事業や運営計画など、様々な提案がなされていたと記憶しています。

しかし、事業計画の人員配置は3名程度のため、これだけの事業を展開していくのは難しい部分があるのではないかと思われます。

優先交渉権者から正式な指定管理者へ決定した場合は、新体制としてしっかりと市との関わりを持ち、毎年その指定管理者が行った、事業に対する評価を行うことも必要と思います。

審査表の得点を見ますと、経費の縮減に繋がることについては第2順位の共同事業体 MORIMIRAI の方が評価が高いので、さらなる経費の縮減というところも、もう少し求めていく必要があると感じました。

[B委員]

指定管理者が切り替わることは、松戸市としても大きな分岐点となり、市民からの印象が大きく変わる可能性があるのではと思います。

また、提案者の提案している事業が実施されれば、非常に活気がある転換になりますし、一方で丁寧に実施しないと形骸化してしまい、むしろ市民にとって遠い

存在にもなりかねないと思います。

指定管理者は、松戸市の文化、芸術をどのように実施していくのかと一緒に考えていくけるパートナーなので、丁寧に評価と支援をしていく必要があると思います。それ以外の、会員サービスや駐車場、広報などは民間事業者の様々な経験がありますので、良くなるといった期待ができると思います。

提案している独自の自主事業について、市民との関係を、市も含めて築いていくと、効果があると思います。

[C委員]

前のお二方と意見は全く一緒です。危惧するところは、提案として近隣の商店街とか他のお店の地図を作つてアプリケーションを開発して、地域活性を期待するという、それは本当にとても大変な事業だと思います。

おそらく商工会議所といった取りまとめている団体とのリンクが必要になると 思います。そこで松戸市がどのような役割を果たすのかというところですかね。

商工会議所と一緒に事業を展開していくには、松戸市が関わる必要があると思 います。

気になるのは、点数を1とつけているところです。人によっては、ないのではないかと思っているところで、B社は人員配置と市との連携、2位のC社は、地域における文化芸術活動の支援促進の部分です。松戸市側は締結段階で、目を光らせていく必要が出てくると思います。それで、ぜひ良い締結をしていただけたらと願 います。

[E委員]

市としてこの文化をどう考えているかを、次期指定管理者の方にしっかりと伝え、 活かしていくかを、考えていかなければと思います。

[F委員]

指定管理者が変わることで雰囲気も変わると思います。新たな民間の事業者に なるということで、関わり方を今後内部でもしっかりと考えていかなければならぬ と、思います。

[委員長]

株式会社コンベンションリンクージの提案資料に、地域との連携とありました が、劇場やホール等、こういった施設は、単なる文化事業を展開するだけではなく、 産業や観光、教育、医療などと連携を図りながら、その地域の拠点施設、社会厚生 施設としての機能をしっかりと果たしていくべきだと聞くことがあります。

新しい民間会社が入ってきたときに、連携を促していくには、市の役割は非常に大きく関わっていくと思います。新しい指定管理者と共に歩んでいくという覚悟を持った上で、この民間事業者を選ぶということを、審査委員会のまとめとして、しっかりとお伝えしたいと思います。是非とも、その点をよろしくお願ひします。

それでは、我々審査委員会の結論からいたしますと、今回ご提示をいただきました、B社、株式会社コンベンションリンクージ。こちらの方を、第1位の優先交渉権者として答申の方に諮っていきたいと思っております。

第2位に関しましては、共同事業体 MORIMIRAI。第3位につきましては、公益財団法人松戸市文化振興財団、こちらでよろしいですか。

[委員一同]

異議なし

(2) 答申(案)について

- ・「審査評価結果の集計について」の議事で決定した順位をもとに、事務局で作成した「答申(案)」について審査委員に提示
- ・審査で出た意見等を優先交渉権者に確実に伝えるよう審査委員会からの要望
- ・内容は事務局案のとおりとする旨決定

(3) その他事項について

事務局から今後のスケジュールについて説明

- ・審査結果を本委員会の答申として報告
- ・答申を踏まえ優先交渉権者と協議
- ・協議がまとまれば指定管理候補者として12月の松戸市議会へ議案を提出
- ・議会の議決を経て正式に指定管理者として指定となったら、令和8年4月1日から指定管理者として業務を行う

各委員からの挨拶後、閉会